



VOL 34

2010年4月号

発行2010年3月31日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

古代通信技術の再現実験 実施

(電気エネルギーを使わない方法での通信の可能性を探る)

平野 彰

煙(狼煙)、太陽反射光、旗 など古代の視覚信号技術での概略通信可能距離を把握する目的で江ノ島展望台を基点に、相模湾沿いに観測点を選定し、それぞれの位置より1)発煙による(狼煙の代用として、発煙筒(密閉試験・防火訓練用及び薫煙剤)を使用) 2)太陽光反射(平面鏡などで反射光を展望台に向け、観測者の確認を得る) 3)旗又は旗の代用品(アルミシート)を伸縮ポールに括りつけ、左右上下に振る。振り方の変化で異なるメッセージの伝達の可能性を探る)などの方法で一方又は相互確認を行なう。地点としてはA点:鶴沼海岸(展望台より約2km) B点:辻堂、潮見台(約4.5km) C点:茅ヶ崎海岸(約8.8km) D点:大磯、高麗山(8.5km)を選定

上記の趣旨(要約)の計画書を基に3月13日(土)に決行となった。天候不順で2度延期になったが漸く実験の日を迎えた。陸地の方は厚い雲で富士山の姿はまったく見えず、風も強く春霞もかかっているが太陽も顔を出していて、まあまあの実験日和か。午前10時片瀬江ノ島駅前には、関、鶴田(泰)、高橋、川口、羽間悠子(関氏友人)が集合、即駐車場待つ半田ご夫妻のもとへ移動する。参加総勢は8名となった。

まず班の編成 移動班は発信を主として、関、川口、羽間と半田ご夫妻の5名が半田車へ。固定班は受信を主として、鶴田、高橋、平野の3名とした。本日持参の用具である、地図、鏡大2枚、スターフラッシュミラー2枚、旗2枚、発煙筒、アルミシート、色紙をそれぞれの班に配分するも今回は視認のみとして旗の振り方などによるメッセージはなしとした。準備中近くの人々が珍しそうに近寄り何をしているのか、との問いに山での異常時の連絡方法の実験と説明したら以前にも同じようなことをしたグループがいたとのこと。

10時50分移動班は最遠のD地点へ出発、固定班は徒歩で春の行楽客で賑わう展望台へと向かった。固定班は受信の準備完了後しばらくして携帯での第一報が入った。

道路渋滞で見地到着は遅れそうとのこと。12時10分ごろ携帯でD地点へ到着の連絡が入り、まもなく、光が見えた。



普通の鏡とスターフラッシュ両方とも視認できたが、光の強さ(大きさ)は鏡の大きさに比例するようだ。しかし光は絶えず点滅状態で、写真撮影に苦勞する。固定の江ノ島からの光も届き両班とも感激の瞬間であった。しかし旗や煙は全く見えない。光については何とか成功と判断、次のC地点へ移動することとした。風はかなり強く江ノ島展望台は大型の船に乗っているような感じだ。この風の中、ヨットやウィンドサーフィンを楽しむ人もいるのに感心する。待つことしばし、13時30分過ぎ2番目のC地点からの連絡が入った。ここでも確認できたのは反射光のみである。しかし距離が近くなった分、光はより大きくはっきり見えた。さらにB地点へ移動する。この間、風は一段と強まり展望台の係員から危険のため、室内へ入るよう指示がでた。14時05分ごろB地点からの光を確認、川口の双眼鏡では旗も見えた。ガラス越しでは写真の写りも悪い。

最後はA地点。展望台からは肉眼でも見えそうな距離だ。しかし移動班からは駐車スペースが無いとのこと、時間もすでに15時を回っているので3地点のみで今回の実験は完了とした。

固定班も朝の集合場所へ移動し、迎える半田車で打ち上げの食堂へ向かった。駅近くの洒落たスパゲッティ屋さんで昼食も兼ねての打ち上げとなった。



連載 ゆにーく 標識&標石

日本道路公団基準点

栃木県佐野市郊外の唐沢山周辺にある数多くの各種標石を確認のため数山を歩いている時に見つけたのが、日本道路公団2級基準点です。これが別々の尾根上に3個、尾根を横断する直線上にあり、何故存在するのか判りませんでした。それから数年経ち、再度現地を訪れましたら基準点の下を北関東自動車道のトンネルを掘削しており、この基準点の理由が判りました。(遠山)

(お詫び)前号 ゆにーく標識&標石 の「丸宮標石」は重複掲載(vol-21に掲載)でした 謹んでお詫びいたします。

登山道情報交換に関する協定について

3月19日午後4時から国土地理院 石井、林、本田の3氏と日本山岳会からは宮崎副会長、北野地理クラブ代表、平野が出席し前回提出された協定書の修正案の説明がありました。

石井氏から修正項目の説明後、宮崎副会長から協定に関しては理事会の承認も得ている。北野さんからは最新の1/25万図の配布はありうるか、又最新の情報の提供は可能かの質問あり。林氏からは電子地図に力点を置いている。又市街地を重点にしていたため登山情報の盛り込みがおくれていた。ウォッチ地図には最新情報が反映されている。情報の対象は地域100名山を基とする。ガイドマップと地形図との違いなどは、測量会社へ確認を委託(年間予算約1億数千円)しかし委託先が必ずしも山に詳しいわけではないので、進捗度は50%以下である。

協定書は締結期間を平成22年4月1日から平成23年3月31日として自動延長する。

国土地理院は測地部長の印、日本山岳会は会長印押し作成する。

適当な時期に国土地理院本院の見学をさせて欲しい旨の話に是非おいでいただきたいとのことであった。

日本山岳会としては登山情報をまとめる委員会のようなものが必要である。以上、報告(平野)

行ってきました 立川断層沿いを歩く

渡辺 真一

立川断層帯は、国立市の谷保・矢川から北西方向に立川市の市街地を通り藤橋を経由して小曾木付近にまで延びている全長21kmの立川断層と、上畑から山王峠を通り下名栗付近まで延びる全長10kmの名栗断層から成る。今回は前半の立川断層に沿って地図の読図を行いながら歩くということで企画された。



当日は冬の戻りとも言えるかなり肌寒い気温の中、平日にもかかわらず13名もの会員が立川駅東口に集合した。

まずは駅東口を線路沿いに東に350mほど歩いたNTT東日本の建物沿いからスタート、断層と思われる部分に沿って狭い道歩く。道を挟んで両方の家の基礎の高さが異なっている部分、坂になった道などをかなり「思いこみ確認」しながら歩いた。個人的には自衛隊立川駐屯地のフェンスが波打っていたのが印象的であった。阿豆佐味神社が近づいたところで「美楽館」という看板のある蔵を発見、館主の豊泉さんの版画とテルミンの演奏を楽しませていただいた。神社内の101.4mの水準点を確認後、近くの山田うどんで昼食。温まったところで玉川上水の大曲を通る断層を確認、この辺りから断層線上の西武拝島線の盛土の差など大きな段差があちこちで確認できた。

日産工場跡を2隊に分かれて大きく迂回したのち、今度は残堀川沿いに休憩を含め約2時間歩を進め、ようやく残堀川源流の狭山ヶ池に到着。ここで全員写真を撮り今日の企画は終了した。午後3時24分であった。ここから15分ほど歩いて八高線箱根ヶ崎駅に到着、今回は反省会なしの解散となった。



日時 平成22年3月17日(水) 午前9時20分~午後3時40分
 行程 立川駅東口出発・曙町・高松町・国語研究所・自衛隊立川駐屯地脇・砂川町・三ツ藤・殿ヶ谷・石畑・狭山ヶ池・箱根ヶ崎駅到着
 参加者 遠山、北野、平野、半田夫妻、鶴田、川口、山崎、堀内、山下、高橋、大西、渡辺(計13名)

例会の議事録 3月定例会

2010年3月10日(水) 19:00~20:15 於 JAC105号室
 出席者 16名(北野、関、田中、半田(明)、半田(由)、遠山、高橋、小松原、大西、渡辺、川口、鶴田(泰)、寺田(美)、山下、森合、平野(順不同))

内容: 5月の例会は、連休との関係で5月13日(木)とする。山岳地における古代通信技術の再現について近藤さん作成の計画書に基づき3月13日に行う。参加者7名(近藤氏が急遽欠席のため平野が説明) 3月13日 JAC 総会がある。議案は予算、事業計画など総会は年2回開催される。6月12日は決算総会の予定。会議開催の条件が厳しくなっているため、欠席の場合委任状は必ず提出の要あり。(北野) 立川断層での読図研修会、3月17日9時 JR立川駅東改札口集合。詳細は別紙(遠山) AGCレポートのバックナンバーはCDで渡す。(遠山) 4月21日は名栗断層の読図予定(遠山) 3月21日 多摩川・荒川分水界探索する。青梅線車庫駅 8:40集合 詳細は別紙(北野) JAC所蔵の古地図を国土地理院に寄託する件は図書管理委員会の同意が得られず保留。国土地理院から登山道調査の協力協定書の修正案が提出された。以上 (記録:平野)

お知らせ

次回の例会

日時 2010年4月14日(水) 18:30から
 於:山岳会 ルーム
 テーマ: 山行報告、登山道調査の件 ほか

AGCレポート vol-34 2010年3月31日発行
 発行:日本山岳会・山岳地理クラブ(代表:北野忠彦)
 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
 TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
 編集担当:近藤 E-mail:hikarikon@nifty.com